

拝啓 今年も早や1月下旬となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、今は山茶花が咲いております。

今回は、小西芳之助先生の『エペソ人への手紙講解説教』からの引用の第8回目です。今回のエンカウンターの第3頁「キリスト教倫理の第1の徳目は、謙虚」には、次のように書かれています。

「キリスト教倫理の、信仰生活の第1の徳目は、謙虚 humble です。愛ではない。人を愛することではない。クリスチャンの第1の道徳は、自分が謙虚になることです。

謙虚に2義あり、第1の意義は、自分が罪深い悪人であるということを知ることです。自分は善人でない、悪人である。自分は間違いが多い者である、自分は正しくないということを知ることです。自分が親切の心が無い者だということが分かったら、お前は不親切だと人の不親切を責めることは出来ない。平和になる。自分は正しいことはないんだということが分かってくれば、お前が間違っていると、お前が悪いんだということは言わなくなる。われわれは人ばかりせめておって自分を責めない、クリスチャンにおいて。そのゆえに平和がない。社会に平和がなく、家庭に平和がなく、友人間に平和がないというのはこれです。自分が悪人であるということが分かっている。

パウロはロマ書を書きまして、初めの3章を使って、われわれは罪人であり、滅ぶべき者である、正しくない者である。神の前に正しくないということをして3章かかって述べた。われわれは罪人であり、不正なものであり、善行ができないと、その自分の本当の姿を知ることが、これがキリスト教道徳、クリスチャンの始めです。これがキリスト教の第1定理です。ロマ書において詳しく学びました。」

自分は罪人であるということは、なかなか認めにくいものです。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』12月27日

「米国宣教師ミス・ローラ・モークからの手紙

小西芳之助様 テモテ後書2章5節

この本は、すべての人が生きるために、死ぬるために、永遠の生命に入るために、必要なすべての真理を持っている。神の真理は完全であるが、我らはそれを受けるために、勉強せねばならぬ。また、それを受けるために、心を開かねばならぬ。特に、すべての伝道者にとって、「本の中の本」と言われるこの聖書の勉強は重要である。私は祈る。あなたが聖書に関する本よりも、聖書そのものを勉強せられんことを。神が直接あなたを教え給わんことを。神自身があなたの最良の教師です。

神があなたを祝福給わんことを。

1950年9月13日 ローラ・モークより」

新渡戸稲造先生『一日一言』12月13日

「時節到来を待つはいたずらの業。人を救うの時、善をすべきの時、悪を避くべきの時、事を始むるの時、いつも眼前足の元にある。なんぞ他日を待つのを要あらん。」

松下幸之助先生『道をひらく』「しかも早く」

「ものごとを、ていねいに、念入りに、点検しつくしたうえにもさらに点検して、万全のスキなく仕上げるということは、これはいかなる場合にも大事である。小事をおろそかにして、大事はなしとげられない。どんな小事にも、いつも綿密にして念入りな心配りが求められるのである。…

早いけれども雑だというのもいけないし、ていねいだがおそいというのもいけない。念入りに、しかも早くというのが、今日の名人芸なのである。」

内村鑑三先生『統一日一生』12月29日

「そうして信仰の進歩と共に今世はますます軽くなり来世はますます重くなるのであります。身は今なお幕のこなたに留まりますが、心はすでにかなたに移りて、その栄光を感じるのであります。そうしてかなたに厚くなればなるほど、こなたに薄くなるのであります。この栄光の国の、わがために備えられしを知りて、私どもはこの世の欲望（のぞみ）が日々に薄らいで来るのであります。そうして耳にかすかにその音楽を聴き、眼にかすかにその輝きを望みて、私どもの心は飛び立つのであります。然り、幕一枚であります。そうしてすべての誘惑（こころみ）は終わるのであります。すべての涙はぬぐわるるのであります。イエスを面前（まのあたり）拝しまつるのであります。愛する者に再会するのであります。すべての疑問が解けるのであります。すべての誤解が氷解するのであります。そうして新しき自由の生涯に入るのであります。人は人生が短いと嘆きますが、クリスチャンはその長からざるを感謝するのであります。栄光の国は今や目前に横たわるのであります。喜びてもなお喜ぶべきではありませんか。」

バークレー先生『ウィリアム・バークレイの一日一章』（12月25日）

「一つの孤独な生涯

世に知られぬ小さな村に、ユダヤ人を両親として生まれた一人の男がいた。母親は百姓女であった。彼は別の、これまた世に知られぬ小さな村で育っていった。彼は30になるまで大工の小屋で働いていた。それから旅回りの説教師となって3年を過ごした。……

長い19の世紀が過ぎ去っていった。今日、彼は人類の中心であり、前進する隊列の先頭に立っている。かつて進軍したすべての軍隊、かつて建設されたすべての海軍、かつて開催されたすべての議会、かつて統治したすべての王たち——これらをことごとく合わせて一つにしても、人類の生活に与えた影響力において、あの孤独な生涯にとうてい及びもつかなかった、といっても決して誤りではないだろう。

これはイエスの生涯のまことに美しい描写である。」

レター・B・カウマン先生 『荒野の泉』 12月19日

「人生はけわしい登山である。登ってゆくお互いの心を楽しくさせるために互いに呼びあい、また愉快に高い山の上で合図をしなければならない。わたしたちはお互いに山を登る者であるから、互いに助け合わねばならない。この登山は危険ではあるが栄えあることである。山の頂上をきわめるには力と確固たる足取りが必要である。眺望は高度と共に広がってゆく。もしわたしたちのうち誰かが価値のあるものを発見したならば、仲間の誰かに声をかけねばならぬ。」

小西先生のパウロ書簡の講解説教集は、全て、CDに変換されて、何セットかが保存されています。山口周三は、1月15日、今井館教友会理事長の加納孝代様、常務理事の藤田豊様と会い、山口周三の所有する分を、今井館に寄付をして、MP3という方式で保存して、かつ会員の利用に供されることに致しました。小西先生の高円寺東教会で行なわれた聖書の講解説教が、ほとんど永久保存の形で保存され、希望者に貸し出しできることになるわけですから、素晴らしいことだと思います。天国の小西先生もお喜びになることだと思います。

新型コロナについては、病院やクリニックではマスクをつけるように指導されていますが、インフルエンザと同時流行の気配もあり、電車の中とかスーパーでも、マスクをする人が再び多くなりました。外出された後の手洗い、うがいなどは、実行されて、コロナやインフルエンザにかからないように充分注意されるよう、祈り申し上げます。

2025年1月21日

山口周三

エンカウンター読者各位